

令和4年度 自己点検・自己評価について

1) 看護学科

(1) 自己点検・自己評価の概要

- ①全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部が作成した、「自己評価書」を用いて、教職員が評価する。
- ②自己点検・自己評価の結果を分析することで改善点を明確化し、具体的な計画を立案して取り組む。

(2) 評価内容・方法

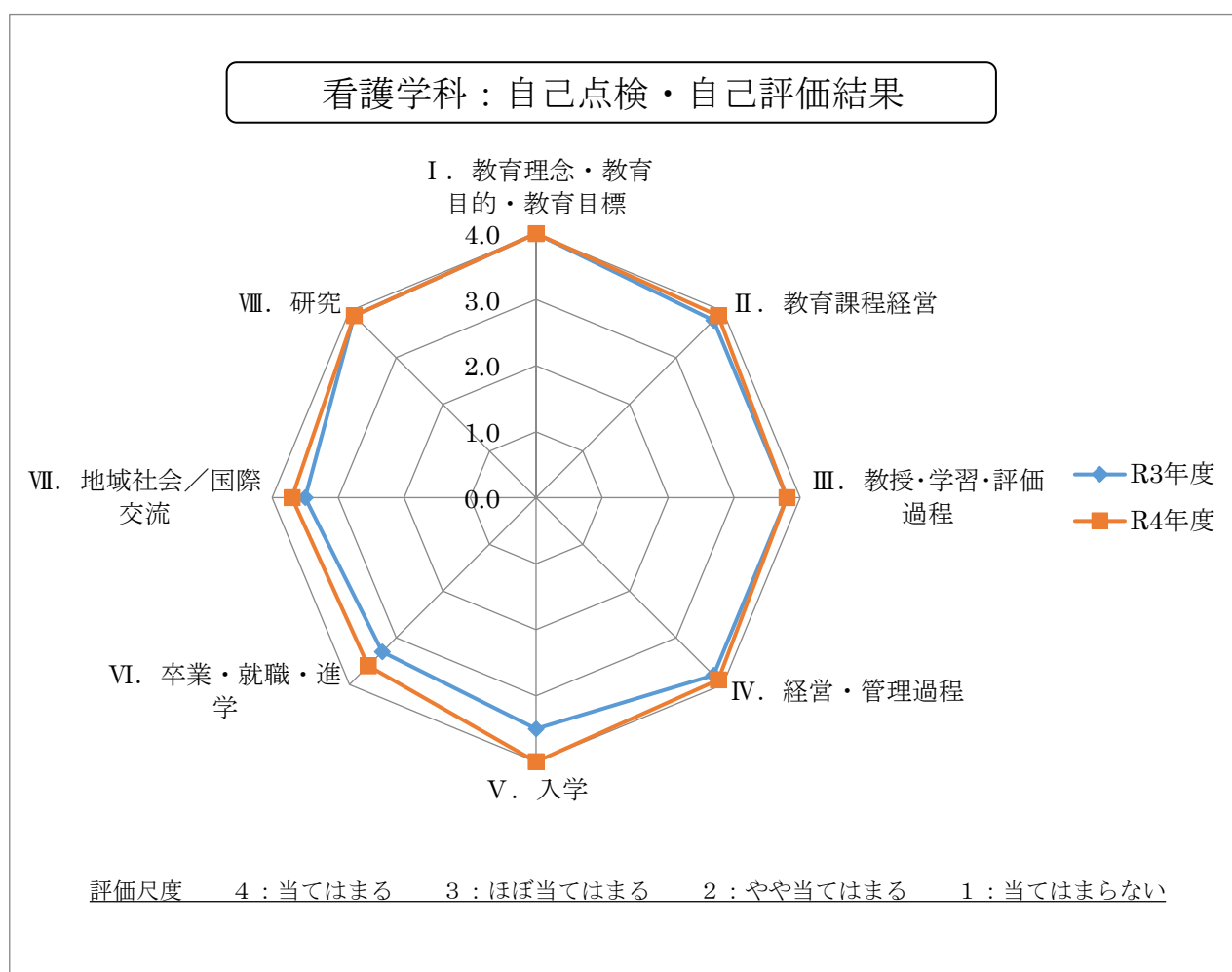
- ①評価表：8 領域、129 の評価項目
- ②評価基準：4 段階評定

＜4. 当てはまる＞ ＜3. ほぼ当てはまる＞ ＜2. やや当てはまる＞ ＜1. 当てはまらない＞

(3) 評価結果

①結果

全 129 項目の評価は、4 点が 91 項目、3～3.9 点が 38 項目であり、全体平均点は 3.9 点で、昨年度より 0.2 点上昇した。評価点が上昇した項目は、「Ⅱ. 教育課程経営」「Ⅳ. 経営・管理過程」「Ⅴ. 入学」「Ⅵ. 卒業・就職・進学」「Ⅶ. 地域社会／国際交流」であり、低下した項目は無かった。



領域別評価結果

評価内容（領域）	年度別平均点	R3 年度	R4 年度
I. 教育理念・教育目的・教育目標 （法との整合性 教育の特徴の明示）		4.0	4.0
II. 教育課程経営 （教育課程編成の考え方 教育計画・評価）		3.8	3.9
III. 教授・学習・評価過程 （授業展開過程 学習支援）		3.8	3.8
IV. 経営・管理過程 （指針 組織体制 施設設備 学生生活支援）		3.8	3.9
V. 入学 （入学選抜の考え方・妥当性）		3.5	4.0
VI. 卒業・就職・進学 （就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の 学生の状況把握）		3.3	3.6
VII. 地域社会／国際交流 （地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ）		3.5	3.7
VIII. 研究 （研究活動の保障 研究成果発表）		3.9	3.9
平 均		3.7	3.9

（４）各領域の結果と今後の課題

<u>I. 教育理念・教育目的・教育目標（法との整合性 教育の特徴の明示）</u> 1. 独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献できる有能な人材を育成するため「博愛」「叡智」「自律」を基盤とし、教育理念、教育目的を明確に掲げ学校の特徴を表現している。アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを、学生便覧、ホームページ、スクールガイド等に掲載、今年度よりシラバスにも明記し、学生及び社会に対して公表している。教職員は、教育理念、教育目的、教育目標、教育方針に基づき教育活動に活かしている。 【課題】 1. 新カリキュラムの教育目標を達成できるよう教育活動を継続して実践し、評価する。
<u>II. 教育課程経営（教育課程編成の考え方 教育計画・評価）</u> 1. 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて、プロジェクト会議や教員会議等の機会を通して一貫した教育活動を行っている。しかし、全員が教育課程編成の考え方を理解しているとは言い難い。 2. 教育計画については、カリキュラム改正の趣旨に準じた計画となっており、教員・学生の双方がわかるように、シラバスや学生便覧等に明示している。 3. 教員の教育・研究活動の充実については、教員会議の場が指導案の検討、教員の教育実践力の向上の機会となっている。 4. 勤務時間内で授業準備のための時間を確保することは難しい現状がある。また、精神看護学や在宅看護論などの実践経験がない教員が担当していることもあり、必ずしも専門分野の科目を担当できてない現状がある。

5. 令和3年度の課題で示された研究授業を継続する点については、令和4年7月に本校においてオンラインによる研究授業を実施した。また、他校で開催されている研究授業にも出席している。
6. 今年度より副学校長・教育主事協議会中国四国支部のGoogle classroomで各学校の授業案等を共有するシステムができたことで、教員が相互研鑽できる機会が増えた。

【課題】

1. 新カリキュラムで構築した教育課程について教育活動を継続して実践し、評価する。
2. 研究授業を継続する。
3. 勤務時間内での授業準備の時間を確保する。
4. 副学校長・教育主事協議会中国四国支部のGoogle classroomを活用する。

Ⅲ. 教授・学習・評価過程（授業展開過程 学習支援）

1. カリキュラム改正に伴い授業内容の重複や整合性、発展性の明確化について整理されている。
2. 目標達成の評価とフィードバックについては、全科目授業評価を実施し、講師会議で評価結果を伝えている。また、今年度から評価結果を各講師へフィードバックしている。各講師から「学生の反応や評価がわかり、今後の講義の参考にしたい」と概ね好意的な意見を頂いている。また、各講師に対しては前年度及び現在の学生の意見を反映し、改善可能な事項については事前に講師への働きかけや学習環境の調整を行い、各講師も講義毎に改善に向けた取り組みを実施している。授業評価アンケートの実施により、学生自身も自分の取り組みや参加度を振り返る機会となり、学生にとってよりよい教育の機会につながっている。しかし、学生へのフィードバックは十分とは言えないため、今後は学生とも結果を共有し、実施可能な取り組みを検討していく必要がある。
3. 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、長期休業明けはオンライン授業を取り入れたり、急遽、オンラインで対応しなければならないこともあったが、学生の学習成果を考慮し計画されている科目配置が変更とならないよう時間割を調整した。しかし、演習の授業はオンラインでは実施できず、講義と演習が連動した授業が実施できないことがあった。こうした制約の中でも最大限の学習効果が得られるよう授業方法を工夫し、教員間で協力体制をとっている。
4. 学習支援については、コロナ禍において、対面授業とオンライン授業を適宜組み合わせで実施している。急遽、オンライン授業への変更となることもあったが、時間割変更や講義資料をgoogle classroomで配信するなどの対応を行い、学生に対して学習支援を行っている。また、知識の定着化の確認のためgoogle formsを活用し、ポストテストを実施するなど、オンラインを活用した講義に取り組むことができている。
5. 24期生（1年生）から電子書籍を導入し、問題なく活用できている。
6. ポートフォリオでの成長把握は学年毎の確認にとどまっている。教員会議で学生状況を共有するなど、3年間を通して活用を進めていくための検討が必要である。
7. 今年度より実習の評価方法として、ルーブリック評価を導入し、基礎看護学実習Ⅰその2からの運用を開始した。

【課題】

1. 評価結果を分析し、教育内容・教育方法の課題を見出す。
2. 学生に対する授業評価結果のフィードバックを検討する。
3. 基礎看護学実習Ⅱと各看護学実習のルーブリック評価を作成し、学生、実習指導者、教員の3者で評価項目や運用など、検討を重ね、ルーブリック評価の活用を進めていく必要がある。

Ⅳ. 経営・管理過程（指針 組織体制 施設設備 学生生活支援）

1. 財政基盤については、学校概況書などに示されている。また、運営会議で学校経営の収支についての報告や、教員会議の場で副学校長・教育主事から母体病院の経営状況を伝達されているが、学校の財政の現状については知るレベルにとどまっている。教職員のそれぞれの観点から財政についての意見の反映ができる機会は、教員会議等で設けられており、今年度は光熱費の削減のための取

り組みについて意見交換し、取り組みを行った。また、定員が 120 人から 80 人となったため、学生確保が重要であると共通理解できている。

2. 施設設備については、校内の全教室と体育館のオンライン環境が整備されたことで、教室が運用しやすくなった。学生からの要望等を取り入れ、図書の整備を行ったり、コロナ禍での対応を教職員が検討してその都度対応している。オンライン講義やオンラインでの実習のため、Google classroom の活用を行ったりした。
3. 災害対策については、コロナ禍ではあるが、密にならないよう工夫して防火訓練を行った。現在はマニュアルを整備している段階である。
4. 養成所の情報提供は、オンラインとオフラインのハイブリット型のオープンスクールを実施したり、学生祭で外部の方との交流会を開くなど、情報発信を積極的に行っている。今年度は、新たに 3 月にもオープンスクールを実施する予定である。
5. Google classroom の活用が定着し、学生へのタイムリーな情報提供と共有が可能になった。また、日本学生支援機構など奨学金の新規契約や継続などの情報提供を Google classroom を活用して行ったことで、迅速かつ細やかな対応につながっている。
6. 高等学校説明会・オープンスクール・学生祭での概況説明や、教育主事による高校訪問で高等学校の先生や受験生の関係者からオープンスクールの効果的な開催時期など有力な情報を得ることにつながった。広報活動においては、学校運営改善プロジェクトでの検討や働きかけがあり、HP での学校生活の様子やオープンスクール・学生祭での動画の公開などが定期的に更新され広報活動は効果的に行われている。
7. 今年度はホームページの更新を定期的実施しており、学校のアピールを適切に行っている。
8. コロナ禍となり、保護者の来校は必要最低限となっており、保護者会の開催はできていないため今後の課題と考える。
9. 施設設備の老朽化に伴い、故障箇所が増え、修繕費用がかかる。

【課題】

1. 学生確保に向けた広報活動に取り組む。
2. 学生生活に関するホームページの記事をタイムリーに更新する。
3. 学校経費の収支の具体的な内訳を可視化し、経営上の課題を明確にし、経費削減につなげる。

V. 入学（入学選抜の考え方・妥当性）

1. 令和 4 年度の高校説明会を 5 月にオンラインで開催した。高校教諭が参加しやすい時間帯の選定、在校生との交流など、方法を見直し実施した。また、高校訪問は、高校での進路指導の時期を考慮し、6 月に岡山県内中心に教育主事 2 名が訪問した。オープンスクールと進路ガイダンスの参加者に、お礼状を送付した。3 月にオープンスクールを新規に実施予定など、広報活動の内容と方法についても見直しを行い取り組んだ。
2. 推薦入学試験については、入学実績から指定校の見直しと、推薦の評価点の見直しを行った。
3. 令和 4 年度の推薦・社会人入試での入学者の確保は 37 名であり、昨年度より 13 名減少した。一般入試では、応募者数が 73 名と昨年より 11 名減少した。応募者数減少の要因としては、岡山県内の 18 歳人口の減少、令和 3 年度以降の定員減による受験控え、看護師志望者数の減少、看護系短期大学の新築移転による影響などが考えられる。入試判定会議では、過去の辞退率を考慮し、できるだけ 80 名定員を確保できるよう合格者を選抜した。また、辞退率低下をねらい、一般入試の合格者に手書きのメッセージカードを同封した。

【課題】

1. 高校説明会の方法を見直す。
2. 高校訪問の訪問先、時期、方法を見直す。
3. 広報活動の内容と方法を見直す。

VI. 卒業・就職・進学（就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の学生の状況把握）

1. 実習施設以外に就職した卒業生について、就業先との情報交換はできていない現状がある。NHOであれば、毎年3月に行われているNHO就職説明会などで情報交換できる場はあるが、NHOと実習施設以外の就職先での情報交換は、なかなか難しい現状がある。施設によっては、卒業後に学校に近況報告として卒業生のメッセージと配属先の病棟師長やプリセプターからのメッセージが送られてくるところもある。しかし、学校から卒業後の状況について情報を得るための活動はできていない。
2. 卒業生の支援体制として今年度は、ホームカミングデーを実施し、卒業生の就職後の意見を聴く機会を持つことができた。日程は夜勤が始まる初夏頃に開催し、約10名程度の参加が得られた。卒業生たちは卒業生同士や教員と近況を話すことができ、学生の進学先や就職先での状況を把握することができた。出席できなかった卒業生には、Google formを活用し、近況を確認した。

【課題】

1. 卒業生の動向把握を継続する。
2. 卒業生に対するホームカミングデーを実施する。参加する卒業生を増やすために、勤務の調整がしやすい曜日や時間帯を設定するなどの改善が今後の課題である。また、卒業生から得られた情報を、在校生の就職・進学指導に活用することが必要である。
3. 卒業後に、学校からも就業先に卒業生のその後の状況についてお伺いする手紙を送るなどの活動を行い、NHOや実習施設以外での就業先との情報交換ができる体制を作っていくことを検討していく必要がある。

VII. 地域社会／国際交流（地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ）

1. 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、式典や行事は規模を縮小して実施した。オンラインの活用技術も進歩し、高校説明会、オープンスクール、学生祭等をオンライン上で実施した。学生祭やオープンスクールにおいて公開講座の配信やホームページ・病院広報誌を活用し、地域社会へ向けた情報発信を行っている。学生祭は、オンラインにて地域のニーズを考慮した企画を実施しYouTubeにUPするなど企画を工夫している。オープンスクールでは、来校型とオンライン型で対応し、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、在校生との交流や学校紹介など工夫を行い実施した。
2. 今年度の新設科目である「生活を支える看護Ⅰ」では、夏休みにフィールドワークを行い、地域住民との交流を図ることから、地域性やその地域に住む住民の状況を学生が考えることができた。
3. ボランティア活動として、献血ボランティアを募集し実施した。
4. 国際交流については、今年度、3年生に対して外部講師による国際看護について特別講義を企画し実施した。
5. 新カリキュラムでは、「災害看護と国際看護」を新規科目として設定し、海外協力隊のNP0法人「アムダ」に講義を依頼している。令和5年度から開講する。
6. 海外からの学生の受け入れや、留学に対する支援に関する規定は学則などに示されているが、具体的な取り組みは行えていない。留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対して、英文による証明書を発行するなど、対応できる体制は整えている。
7. 現在は留学を希望する学生がいないのが現状である。しかし、図書室に海外の文献を準備したり、外国語の授業では、外国人講師による授業を行っており、国際的視野を広げるための教育内容の設置はできていると考える。

【課題】

1. 地域との連携を図る内容と方法を検討する。
2. 国際看護についての特別講義を継続する。
3. 新設科目の「災害看護と国際看護」を実施し評価する。

VIII. 研究（研究活動の保障 研究成果発表）

1. 今年度は、学会での研究発表 1 題、学会誌・紀要への論文投稿を 2 題実施した。
2. 岡山看護助産学校研究倫理審査委員会 で 3 題の研究計画書の審査を受け、承認され、現在データ収集中である。
3. 教員研究会の活動をオンラインで開催し、自施設で時間内に取り組むことができている。交通費が削減されたことにより、研究助成金の活用が課題である。

【課題】

1. 今年度、倫理審査委員会 で承認された研究に取り組み、次年度の学会発表もしくは、紀要に投稿する。
2. 新たな研究に取り組む。
3. 計画的に研究助成金を活用する。